解力リラ家门

番町幹線オーバーフロー分の桜田濠流入を 阻止する高落差マンホールの築造

一千代田区永田町一丁目、霞が関二丁目付近再構築工事東京都下水道局発注

がませた。こういち 林幸一 前田・大日本建設共同企業体(特) 永田作業所所長



1 はじめに

首都機能が集中する東京都千代田区 永田町周辺の下水道管きょの大部分は 敷設してから50年以上が経過しており、 老朽化の進行による下水道の機能低下 が懸念されている。

また集中豪雨などによる浸水被害の 軽減を図るため、排水能力の向上も課 題となっている。さらに、この周辺地 域は汚水と雨水を同じ一本の下水道管で流す合流式下水道となっており、一定量以上の雨が降った時に汚水混じりの雨水が皇居内濠に流れ込む構造のため、内濠の水質を悪化させる一因と考えられている。本事業はこれらの課題を解消するために主要枝線を構築するものであり、平成22年に開始した第一期工事から始まり第五期工事まで予定されており、本工事は第三期工事とし

て施工された。図-1に全体図を示す。

管路築造には ϕ 2,200mmシールド工事を主工法とし、第三期工事では上下縦二連一体型シールドであるH&V(Horizontal variation & Vertical variation)シールド工法を採用し、掘進途中に下部シールド機を分離させ右折することにより二つの管路を同一発進立坑から同時施工している。

シールドトンネルの土被りは最小35.2m、最大51mと非常に深く、また主要官庁の集中する地域であり交通への負荷はできうる限り小さくすることが求められた結果、立坑築造には都市型圧入ケーソン工法であるアーバンリング工法を採用するに至った。

縦二連型大深度シールド工事としての報告も有用であると思うが、本稿では鉛直方向ではあるものの、推進技術専門誌の記事としてアーバンリング工法を中心に記述する。また図-1でTNo.4は管理用大深度マンホールとしてプレキャストによる落差マンホールを採用したので、その構造についても若干触れてみたい。図-2にTNo.4部分を拡大して示す。

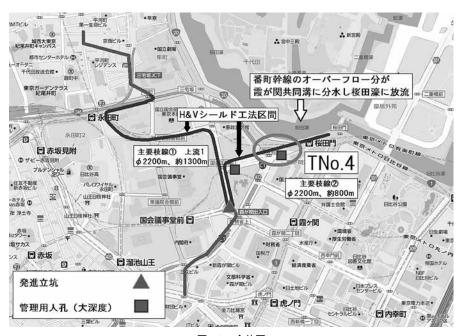


図-1 全体図

2 アーバンリング工法を 採用した理由

一次選定の結果絞り込まれたPCウェ ル工法、アーバンリング工法、圧入ケー ソン工法から二次選定した。当工事は 主要官庁のひしめく最重要地域での施 工であることが工法選定の最大のポイ ントとなる。一次選定においてケーシン グ工法以外の採用は検討から外される こととなった。検討結果の概略を表-1 に示すが、比較の中で施工場所は国会 前交差点内に位置することから、車道 の大幅な車線規制が認められないこと がアーバンリング工法採用の決め手と なったが、①1車線のみの車線規制で 施工できること、②近接する東京メトロ 地下出入り口の影響対策が可能である こと、③内径 φ 5.0m、深度 42.5m の条 件を唯一満たす工法として採用された。

特に近接する(約7.5m)東京メトロの地下出入り口連絡路の影響については、事前のFEM解析を行うとともに事後調査も実施した。連絡路の許容変位量は垂直・水平ともに5.0mmである

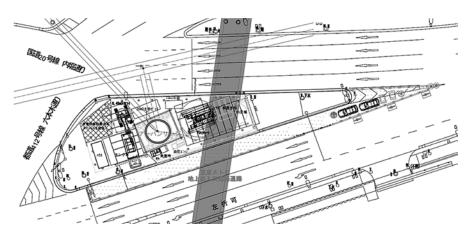


図-2 TNo.4 立坑拡大図

が、FEM解析では最大変位量2.86mm と計算され、実際の計測においては 1.0mm以下とほとんど測量誤差の範囲 と考えられアーバンリング工法の周辺 への影響防止効果が実証されることと なった。

3

アーバンリング工法について

3.1 アーバンリング工法の概要

アーバンリング工法は、工場で製作

されたアーバンリングピース(図-3)を円形または小判形に組み立て、鉛直方向に積み重ねたリング内部を主にクラムシェル等のバケット系掘削機を用いて掘削し、沈設用アンカを反力として所定の地盤に沈設させる工法である。図-4に工法概要を示す。

3.2 アーバンリング工法の特長

アーバンリング工法には主として以下 の特長がある。

①近接構造物および周辺地盤への影響

表-1 工法二次選

項目	PCウェル工法	アーバンリング工法	圧入ケーソン工法	
施工規模	外径 φ 9,000mm 内径 φ 8,000mm	外径 φ 8,480mm 内径 φ 8,000mm	外径 φ 9,000mm 内径 φ 8,000mm	
工法概要	プレキャストブロックを組み立てて円形とした ものを圧入 ケーシング内を水中掘削	分割された鋼製ピースをリング状に組み立て て圧入 ケーシング内を水中掘削	現場打ち鉄筋コンクリートを圧入 ケーシング内を水中掘削	
掘削機械	クローラークレーン 150t級	クローラークレーン80t級	クローラークレーン80t級	
施工性	・プレキャストブロックを使用するため後からの人孔構築が不要 ・水中掘削であるので坑内作業が少なく安全・ブロックが大きいため揚重機、ヤードともに大がかりとなる	・鋼製リングを丘組みし工期短縮が可能であるが、後からの人孔構築が必要 ・水中掘削であるので坑内作業が少なく安全 ・資材運搬が容易	・現場での躯体構築が必要であり工期が一番長期間・水中掘削であるので坑内作業が少なく安全・資材運搬が容易	
周辺環境への影響	・水中掘削で周辺地盤への影響が少なく、 静的圧入のため低騒音、低振動である ・本坑接続のため他工法との比較して外径 が大きくなり近接物への影響が大きい	・水中掘削で周辺地盤への影響が少なく、 静的圧入のため低騒音、低振動である ・必要最小の立坑を選定でき、占用面積が 小さい	・水中掘削で周辺地盤への影響が少なく、 静的圧入のため低騒音、低振動である ・外径が大きくなる上、外足場が必要	
道路および 交通への影響	・クローラークレーン150t級を要し、アー バンリング工法に比べ外径が大きくなるた め、広い作業ヤードが必要	・他工法に比較して作業ヤードが最も小さく、 道路・車両および歩行者への影響が小さ い	・アーバンリング工法と掘削機械は同等であるが外足場や仮置場が必要であるので作業ヤードが広くなる	
車道規制	大幅な車道規制を要する ×	大幅な車道規制を要しない 〇	大幅な車道規制を要する ×	
作業基地(m²)	710	310	570	
経済性	高	安	中	